

野彦五郎季光申軍忠狀に、『去年十一月四日能州守護桃井兵部大輔殿自京都當國御下向之間、屬彼御手之處、同十九日御敵桃井兵庫助直信率數千騎、自越中令亂入能州、取陣高島宿云々。』と見え、能登名跡志には『家數百軒許。此村に太郎左衛門とて、長家などへ由縁ありて古き者あり。又當國三十三番順禮十一番札所常樂寺とありしに、今寺なし。本尊觀世音は此村伊勢屋といふ者の方に安置あり。』とある。又能登誌には、宗祇が此の所を通つた時の作として、『たかばたけともたかる櫻かな』の句を載せる。

タカバタケアツサダ 高島厚定 通稱源太郎・五郎兵衛。寶曆十二年父孫十郎の遺知七百石を襲ぎ、御馬廻に班し、新川郡奉行・宮腰町奉行・御作奉行に歴任し、寛政元年物頭並から次第に昇進して御馬廻頭に至り、文化七年九月廿五日歿した。その著に檢地判圖・檢地繩張仕樣圖がある。

タカバタケイヘイ 高島伊平 金澤の町人。諱は知久、龜亭又は大年と號した。家を鍋屋といひ、傍ら岸派の畫を描いた。文政元年五月六日廿七歳にて歿。

タカバタケサダアキ 高島定詮 通稱茂助。石見守定吉の弟。前田利家に仕へて祿千石を受け、後又兄の祿千石を分かち領した。慶長元年退老し、子善太夫その千石を襲ぎ、他の千石は次子彦太夫定次・末子十兵衛定治に分與した。元和五年歿。

タカバタケサダカズ 高島定量 石見守定吉の弟。初諱貞政。通稱孫七郎・木工。兄定良・定詮と共に前田利家に仕へて千石を受け、慶長三年芳春院夫人を奉じて伏見に至り、二

年を経て又江戸に従ひ、十六年その地に歿した。

タカバタケサダカタ 高島定方 通稱左門。五郎兵衛。實は青木善四郎信照の二子で、慶長六年高島定吉の嗣となつたもの。父の歿後千石を受け、前田利常襲封の初百五十石を増し、大坂兩役に従ひ、後役に首二つを獲、戦後馬廻頭に任ぜられたが、承應元年罷め、翌二年歿した。子五郎兵衛定元後を受け、五百石を領した。

タカバタケサダタカ 高島定高 通稱久丞。木工。父は定量。幼にして前田利長に仕へ、三百石を受けた。慶長中幕府の士大島一平逃亡して、名を雲三郎右衛門と變じ來り仕へたが、幕府藩に命じて之を誅せしめようとした時、定高藩かにその議を聞き、自ら請うて殺害の任に當つた。父の歿後祿千石を襲ぎ、芳春院夫人に隸し、大坂の役には足輕頭となつて従軍し、後役には八町目にて首一つを得、元和三年二百石を増し、正保元年歿した。

タカバタケサダツグ 高島定次 通稱彦太夫。茂助定詮の二子。大坂再役に出席し、二、九で首一つを獲、祿八百石に至り、寛文三年歿。子孫茂太夫之定、享保十五年廿六歳にして亂心自及し、家斷絶した。

タカバタケサダツネ 高島定恒 通稱源藏。五郎兵衛。五郎兵衛定光の後を受けて五百石を領し、後二百石を加へ、享保十四年七月八日七十三歳を以て歿した。

十一歳で歿した。菅君雜錄の著がある。

タカバタケサダヨシ 高島定吉 尾張の人。父は孫十郎吉光。初名孫十郎、後織部。幼より前田利家に給事し、利家の宗家を襲ぐに及び二百石を受け、天正の初從うて越前に來り、六百石（一作八百石）を加増せられ、公妹昌姫を娶つた。九年利家の兄安勝と共に能登七尾城を守り、十年溫井景隆・三宅長盛の兵を芝峠に撃ち、次いで石動山攻撃に功があつた。十一年定吉石川郡劍城の守將となり、祿一萬二千石を賜はり、翌十二年復七尾城を守り、九月袋井半人の荒山城を抜き、十四年越中宮崎城を守り、文祿三年從五位下石見守に叙任し、祿一萬七千石に上り、慶長五年の役に金澤城を守り、利長の凱旋するや復八幡城に還つたが、幾くもなく剃髮して無心と號し、七年致仕、八年正月三日京で歿した。享年六十八。法號宗山日心居士。

タカバタケサダヨシ 高島定良 高島定吉の弟。通稱九藏、平右衛門。九歳の時前田利家に仕へて千石を受け、天正十二年には村井長頼に隸して越中朝日山を守り、又兄定吉等と木船城を攻め、八王子・大聖寺の諸役に従ひ、祿増して五千石に至つた。慶長五年芳春院夫人を奉じて江戸に至り、翌年六十五歳を以て歿。

タカバタケサダヨシ 高島定良 通稱善太夫。茂助定詮の子。祿千石。大坂再役に從うて、三、九で首一つを獲、寛永六年安藝御前附となり、寛文五年歿した。

タカバタケシヨウ 高島庄 鹿島郡に在つた。承久三年注進の能登國田數目録に、『高島莊、拾五町九段九、建久二年立券狀』とある。

後世亦高島庄がある。

タカバタケシヨウ 高島庄 鹿島郡に屬し、藩政時代では、藤井・福田・高島・小金森の四ヶ村を含んで居た。
タカバタケノリヒサ 高島式久 東鑑建長五年九月廿六日の條に、能登國御家人高島太郎式久の名が見える。鹿島郡高島の住人であらう。

タカバタケハラヤマブン 高島原山分 鹿島郡高島のうちの小字。今は獨立部落として取扱はれて居る。
タカバタケヤスサダ 高島保定 通稱平十郎・平太夫・木工。父は久兵衛。年十一前田綱紀の新版に列し、元祿六年吉徳の側小將となつて新たに二百石を受け、正徳中大小將組に班し、近習を兼ね、大小將番頭に進み、享保九年先手物頭に遷り二百石を増し、十二年家督を受けて千二百石を襲ぎ、十九年持簡頭に轉じ、元文二年盜賊敗方を兼ね、尋いで馬廻頭を経て定番頭に擢でられ、職秩三百石を得た。寶曆五年退老剃髮して閑休と號し、養老俸三百石を受け、六年六月十五日七十四歳を以て歿。

タカバタケヤスサダ 高島安定 通稱善太夫。四兵衛定久の養子。正徳元年遺知五百石を受け、次いで御近習番・大小將横目より漸く昇進して御小將頭に至つた。寶曆十三年五月八日歿、七十六歳。

タカバタケユキサダ 高島之定 通稱小傳次・茂太夫。祿八百石。御馬廻組に屬したが、享保十二年十一月廿七日二十六歳で亂心自殺を仕損じ、十二月六日知行を召放され、二十人扶持を興へ、親類中に引取り締りを命ぜら